

令和4年度組織球症委員会活動報告

令和4年度下半期組織球症委員会活動報告
2023年6月

委員：古賀友紀、塩田曜子、中沢洋三、八角高裕、土居岳彦、坂本謙一

オブザーバー：森本哲、大賀正一、金兼弘和、工藤寿子、前田美穂、浅野健、小野林太郎（2023年2月～）

テーマ

1. 稀な組織球症の全国調査（担当：浅野健先生）

学会研究審査委員会で承認を得たのちに、調査票回収、調査・解析を行った。

第64回日本小児血液・がん学会学術集会（稀な小児組織球症の全国調査、浅野健ら、OS1-1）で報告。同じコホートでの研究も検討中（森本先生）。

2. Histiocyte Society の HLH の国際レジストリー（担当：八角委員）

欧米のレジストリーと足並みを揃えるか、日本独自のものを立ちあげるか。

八角委員、坂本委員中心にすすめる。

3. 小児科および他領域へ LCH についての広報（担当：塩田委員）

学会学術集会や学会雑誌等への投稿により啓発活動をすすめる。

特に「組織球症に続発する中枢神経変性症（Histiocytosis-ND）」については、成人症例も対象とし、神経科や内分泌科など、他学会との連携が重要と考える。ワーキンググループのような形で活動し周囲へ協力を依頼していく。

〈学会・研究会・勉強会など〉

- ・2023年1月15日台湾Annual Conference of the TPOG (Taiwan Pediatric Oncology Group)にて招待講演、坂本委員。
- ・2023年1月30日静岡県立こども病院 院内学術講演会にて発表、塩田委員。
- ・2023年6月9-10日日本小児神経外科学会にて発表予定、塩田委員。
- ・2023年9月9日日本小児皮膚科学会にて発表予定、塩田委員。

4. LCH の家族例についての調査研究（担当：古賀委員）

自施設の症例（骨LCH、年長児兄弟）につき共通の新規 germ line 変異あり。全国調査を計画する。

5. COVID19 流行下での HLH 発症の推移に関して（担当：坂本委員）

日本血液学会（日本血液がん学会データを含む）公開データを用いた疫学研究。

第64回日本小児血液・がん学会学術集会（COVID-19 流行後の感染症関連疾患の発症頻度解析、坂本謙一ら、OS1-2）で報告。

REDUCED INCIDENCE OF HEMOPHAGOCYTIC LYMPHOHISTIOCYTOSIS IN JAPAN DURING THE COVID-19 PANDEMIC,

38th Annual Meeting of the Histiocyte Society, STOCKHOLM, SWEDEN, September 18-20, 2022,

Sakamoto, et al.)で報告。

Sakamoto, et al., Int J Hematol. 2022 Mar;115(3):446-448.にて論文化済み。

2021年までの症例ではあり、期間をあけての追報を検討してはどうか。

学会登録結果が出たタイミングで解析を検討したい。

6. 先天性代謝異常症に合併する血球貪食性リンパ組織球症(HLH)の後方視的調査研究(担当:坂本委員)

日本先天代謝異常学会との共同研究にて先天代謝異常症に合併する血球貪食性リンパ組織球症の大規模調査を行う。手続きをすすめている。

先天代謝異常症に合併する血球貪食性リンパ組織球症については、八角委員がPIのレビューで執筆し受理された。

7. LCH, HLH に関する HP 作成（担当：土居委員）

作成の是非も含めて検討中。

8. 重症 MAS に対する調査研究（担当：土居委員）

自施設での数例のVP投与経験をまとめたうえで、全国調査につなげる。

全国調査を行う場合は、東京医科歯科大学・清水先生にも相談が必要か。

（文責・古賀友紀）